

第一回教育学部野外演習の報告

約4年間の準備期間を経て、08年の9月、第一回目の教育学部カナダ研修が開催されました。今回の研修は、心の教育実践センターの主任代理であり、教育学部講師でもある難波克己先生が企画・事前及び現地指導を、カナダ法人玉川学園（TNC）スタッフのコテが現地視察、野営／トレッキング、及び英語の指導を、同スタッフの岡田が土壌と樹木を中心とした自然科学の学習を、その他のTNC職員が指導補助を担当しました。野外活動を通して教師としての資質を考察することをテーマにし、豊かな自然に囲まれたナナイモ校地の環境をフルに生かした演習でした。詳細は、以下の通りです：

演習目的： 自己発見、自己開発、コミュニケーションスキル、社会貢献に対する意識と行動力、意思決定力、判断力、自然環境・生態系に関する知識、グループプロセッシング、問題解決力、感情力、対人関係力、リーダーシップ、フォロワーシップ力、及び状況分析力等の向上を目指す。

参加者： 10名（全員女子）

日程： 9月4日（木）～17日（金）12泊14日

研修日程・内容：

- 第1日目 到着／TNC生活に関するオリエンテーション
- 第2日目 チームワーク作り／遠征準備（野営の基礎）
- 第3日目 自然科学実習／遠征のための食料調達・荷造り
- 第4日目 ストラスコナ国立公園での野外遠征開始／Mt. Washington →Kwai Lake
（Kwai Lakeにて野営）
- 第5日目 Kwai Lake → Lake Beautiful → Cruickshank Canyon Lookout へトレッキング
（Kwai Lakeにて野営）
- 第6日目 Kwai Lake → Circlet Lake へトレッキング（Kwai Lakeにて野営）
- 第7日目 Kwai Lake → Mt. Washington → Coombs → TNC
- 第8日目 遠征全体の振り返り／片付け／日本文化紹介の準備
- 第9日目 市内小学校訪問／日本文化紹介／Vancouver Island University
- 第10日目 ビクトリア観光
- 第11日目 研修の振り返り
- 第12日目 TNC－バンクーバー観光－ホテル泊
- 第13日目 バンクーバー空港にてチェックイン
- 第14日目 成田空港に到着

引率及び演習指導を担当された難波先生が企画されたこのプログラムをお手伝いさせていただきながら、次のような玉川学園の理念を思い出しました：

- － 昨日まで知らなかった事を知るようになる。
- － 出来なかった事をやり遂げる事ができるようになる。
- － 教育活動を通じて、人生について深く考えるようになる。

私は研修の随所でこのような実感を持つ事ができたが、参加学生も同様に感じていた事を彼らの発言から感じ取ることができました。

到着した翌日から、お互いの情報交換や山歩きのための準備が開始されました。個人の演習目標を設定し、山歩きや野営生活の基本を実践も交えながら学びました。

山歩きを目前に、足慣らしと生態系の学習のため、地元のハイキング・コースを歩きました。そこに自生している植物・樹木及び土壌の生態系について話しを聞きながら、生物と環境が複雑に関わり合っていることを学びました。ここで学んだ事を生かし、自然保護を配慮をしながら、山歩きに臨みたいし、学生にもその配慮を実施してほしいと強く願いました。

空腹を満たすだけでなく、栄養面も考慮した献立を作るようアドバイスを受けた後、その食材調達のため、市内のスーパーマーケットに出かけました。3つのグループに別れて、チームワークを生かしたグループワークの実践でした。日本で見かけるものとは異なる食材を目の前にし、冷凍や冷蔵の不要なもので、持ち運びに便利な食材、一体何を購入したらいいのか戸惑う学生ばかりでした。時間が少々かかりましたが、グループ毎に協力し、店員のアドバイス等を受け、買い物を済ませる事ができました。

いよいよ、ブーツの紐を締め、重い荷物を担ぎ、ステッキを両手に握り、山歩きの出発点に立った時、全員、笑顔を見せていたものの、内心、今日の目標地点まで歩き通せるのか不安な部分もあったのではないのでしょうか。私自身がそうでした。歩いている時は、素晴らしい景色を鑑賞すると同時に、一步一步足を前に出しながら、日常の生活を振り返ったり、将来のことを考えあぐねたりしながら、自分と正直に向き合っていた学生がほとんどであったことが、後の「振り返り」の時間で分りました。

演習9日目には、ナナイモ校地の近くに位置する公立小学校を訪問し、日本文化を小学生と先生達に紹介しながら、交流を図りました。その後、校長先生から、BC州の学校教育及び、この小学校の教育方針について話しを聞く事ができました。午後には、ナナイモ市内の Vancouver Island University 主催の行事に参加し、地元の学生達と交流を図ることができました。

この演習のハイライトでもある3泊4日間の野外遠征中はもちろんのこと、その前後研修においても、指導者中心の進め方でなく、各参加学生自身が自主的に課題に取り組む事ができるよう十分に工夫され、セッションの合間には、チームワーク作りや問題解決のためのゲームを数多く取り入れ、理論と実践のバランスがとれた演習内容でした。

このプログラムの最も印象的なことは、山歩きからナナイモ校地に戻った、学生達の表情から、全行程を歩き通した達成感、新しい自分に気づいたことと、今まで自身の中に抱えて来た問題の解決の糸口が見つけられたこと、或は、ある目的が見えた事等、様々な理由から、非常に晴れ晴れとした様子が見受けられましたことでした。それぞれの学生が、この演習目標を十分に達成し、帰国出来た事と信じています。

カナダ法人玉川学園 中谷路子